

■永井荷風 小説家、随筆家。隠遁の生き方で、戦時下も密かに書き続け、〈敗戦〉直後に歓迎されるも、自由を全う。

ながいかふう

琉球処分・1879= 東京で、名古屋藩出身の内務官僚永井久一郎の子に生まれる。

明治14年政変1881= 2歳：

初の対等条約1888= 9歳：

帝国憲法発布1889=10歳：父が文部大臣の首席秘書官になるなど、エリートとして出世するなか、

足尾鉍毒始・1891=12歳：高等師範の付属中学に入学するが、

病弱で進級が遅れ、また学校の空気になじめず、詩歌管弦に遊ぶ。

日清戦争始・1894=15歳：

八幡製鉄始・1897=18歳：初めて吉原に遊ぶ。中学を卒業し、一高を受験するが不合格。高商の付属外国語学校に臨時入学。

子規句歌革新1898=19歳：良家の風に反抗、広津柳浪門に入り小説家を志す一方、

Bushidou・1899=20歳：落語家の修業もしたが、父に知られて断念。懸賞小説に応募入選するなど、短編が新聞雑誌に載るようになる。「薄衣」。東京外国語学校清語科を中退。

ピアノ国産化・1900=21歳：「烟鬼」。巖谷小波を知り、メンバーとなる。福地桜痴のもとで歌舞伎修行。

田中正造直訴1901=22歳：桜痴とともに日出新聞に入社、雑誌記者となるが、解雇される。「ゾラの作品に感動して、

教科書疑獄・1902=23歳：ゾライズムの洗礼を受けた「野心」を処女出版。さらに「地獄の花」を刊行。

日比谷公園・1903=24歳：「夢の女」「女優ナナ」と続く。この年、父の勧めで渡米。

シアトル、タコマ、ミシガンを経て、父の計らいで正金銀行ニューヨーク支店に就職。オペラやフランス文学への傾倒を深める。

日露戦争終・1905=26歳：

満鉄発足・1906=27歳：

韓国反日暴動1907=28歳：父の計らいで正金銀行リオン支店に転勤となり、「ヨーロッパに渡り、

アヲテ創刊・1908=29歳：銀行を辞職して、*帰国。「あめりか物語」を刊行して注目を集める。

伊藤博文暗殺1909=30歳：*「続く」「ふらんす物語」は発禁となる。その後、新帰朝者として明治社会の浅薄な文明を批判、下町や花柳界の情趣を追う耽美的傾向を示し、「すみだ川」「冷笑」などを発表。

韓国併合・1910=31歳：慶応義塾の文科教授、{三田文学}主幹となり、反自然主義陣営の一つの中心となった。

明治天皇没・1912=33歳：反時代的姿勢はいつそう濃厚となり、「新橋夜話」などを著す。

大正政変・1913=34歳：父が死去。前年結婚していたヨネと離別。

第一次大戦始1914=35歳：4年越しで付きあってきた新橋芸者の八重次と結婚するが、

21ヶ条要求・1915=36歳：家出され、離婚。

民本主義・1916=37歳：慶応義塾の教授と{三田文学}主幹をやめ、隠遁的自由さの中で、

ロシア革命・1917=38歳：花柳小説「腕くらべ」を配付。「断腸亭日乗」の起筆もこの時期である。

本格政党内閣1918=39歳：「荷風全集」刊行開始。

大暴落・1920=41歳：*「おかめ笹」の傑作を生んだ。

原敬首相暗殺1921=42歳：

護憲三派圧勝1924=45歳：

反時代的であっても新風俗への好奇心はさかんであり、花柳界への出入りや芸者との付き合いも活発。

満州事変・1931=52歳：*「つゆのあとさき」を発表して、再び活躍期に入る。

国際連盟脱退1933=54歳：

帝人疑獄事件1934=55歳：「ひかげの花」などに結晶し、

日中戦争始・1937=58歳：この年、母が死去。また「墨東綺譚」となっている。

太平洋戦争下の軍国主義には断固として非妥協を貫き、

日米開戦・1941=62歳：反国策的な「浮沈」、

・・・・・・1942=63歳：

年金+総武装1944=64歳：「踊子」「来訪者」「問はずがたり」などを、ひそかに書きつづけ、

敗戦・1945=65歳：敗戦後、

新憲法公布・1946=66歳：*これらの作品を次々発表、ジャーナリズムから歓迎されて、「大家の復活」といわれたが、反時代的態度は変わることなく、陋巷に隠れ、浅草の踊子たちと親しむという「偏奇」で「自由」な姿勢を保ちつづけ、

極東裁判決・1948=68歳：「荷風全集」刊行開始。

独立回復・1951=72歳：

メデー事件・1952=73歳：文化勲章を受け、

自衛隊発足・1954=75歳：芸術院会員に推されるなどするも変わらず、

美智子妃・1959=80歳：ひとり胃潰瘍の吐血をして、没した。

新潮日本文学アルバム、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、歴史有名人の死の瞬間、